

令和6年度

**福祉教育読本「ともに生きる」感想文集
福祉絵画コンクール受賞作品集**

ともだち

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

はじめに

福祉にかかわる心は、大人になって急に芽生えるものではありません。幼児期からの様々な人との交流や体験を通して育まれるものと考えています。

宗像市社会福祉協議会では、地域共生社会の実現に向けた福祉教育の推進を一つの柱に掲げています。その事業の一つとして、毎年、福祉教育読本「ともに生きる」の感想文と福祉絵画を募集しており、優秀な作品に対して表彰を行うとともに、作品集「ともだち」を作成しています。

今年度も「ともに生きる」読後感想文コンクールには、市内小学校五年生にご応募いただきました。また、福祉絵画コンクールには、市内の保育園・幼稚園から高校生までを対象に作品を募集し、434名の参加がありました。これらの作品は、いずれも心温まる思いやりや、福祉の心にあふれる素晴らしいものでした。

この福祉事業の推進にあたりましては、先生方をはじめ、多くの関係者の方々にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

なお、この事業に用いた福祉教育読本にかかる経費などには、赤い羽根共同募金による配分金が充てられており、共同募金がこのようなところにも使われていることをお知らせしながら、皆さまの日頃からのご理解とご協力に厚く感謝申し上げます。

令和七年二月

宗像市社会福祉協議会 会長 吉田善仁

福祉教育読本「ともに生きる」感想文集 目次

☆ 会長賞	障害者にできるひそかな手助け	東郷小学校	西村 咲那	6
☆ 金賞	おばあちゃんの笑顔を読んで	日の里東小学校	田中 紗佳	6
☆ 金賞	老いも若きも共に生きる	日の里西小学校	木下 翔	7
☆ 銀賞	「公民館のおじさんありがとう」を読んで	河東小学校	真木 つぐみ	8
☆ 銀賞	「ともに生きる」を読んで	赤間小学校	富森 晴海	9
☆ 銀賞	障害のある人の社会生活	河東西小学校	木須 陽彩	10
☆ 銅賞	迷わず手伝える人になりたい	吉武小学校	濱口 さや	10
☆ 銅賞	高齢者を支えるボランティアさん	河東西小学校	岡崎 結愛	11
☆ 銅賞	ずっとずっと、私のおじいちゃん	河東西小学校	橋本 隼斗	12
☆ 銅賞	ぼくのいとこ	河東小学校	栗田 健太朗	13
☆ 優秀賞	計21作品			
☆ 優秀賞	「ともに生きるを読んで」	赤間小学校	永露 かのん	14
☆ 優秀賞	ケースバイケースくともに生きるためにく	赤間小学校	小宮 秀悟	14
☆ 優秀賞	ともに生きる	赤間小学校	平川 紗羽	15
☆ 優秀賞	わたしたちにできること	赤間西小学校	堀 玲	16

☆ 優秀賞	ともに生きるを読んで	赤間西小学校	瓜生りの	16
☆ 優秀賞	「通勤中のできごと」を読んで	河東小学校	後藤和子	17
☆ 優秀賞	「通勤中のできごと」を読んで	河東小学校	日高悠乃輔	17
☆ 優秀賞	おじいちゃんの認知症	河東西小学校	安西実久	18
☆ 優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	南郷小学校	古田愛美	19
☆ 優秀賞	いろいろな種類の障害	東郷小学校	奥太志	20
☆ 優秀賞	障がい差別のない世界へ	東郷小学校	宮内結愛	20
☆ 優秀賞	私に出来ること	日の里東小学校	山田大翔	21
☆ 優秀賞	今の私にできること	日の里西小学校	坂田陽夏子	22
☆ 優秀賞	「野球大会」を読んで	自由ヶ丘小学校	本田海	23
☆ 優秀賞	まさるちゃんの生命力	自由ヶ丘小学校	小野詩文	24
☆ 優秀賞	かずお君の本、きれいやねを読んで	自由ヶ丘小学校	山田結菜	24
☆ 優秀賞	『命を支える』	自由ヶ丘南小学校	峯桜輔	25
☆ 優秀賞	みんなが住みよいまち	玄海小学校	吉野晴太	26
☆ 優秀賞	ともに生きていく、共生社会	玄海東小学校	松本凜	26
☆ 優秀賞	みんなのためのユニバーサルデザイン	大島学園	古賀妃奈	27
☆ 優秀賞	ともに生きるを読んで	地島小学校	隈元琴音	28

福祉絵画コンクール受賞作品集 目次

金賞

☆ 幼児の部	ちきゅうのみんながにこにこげんきにぐらせますように	日の里幼稚園	三輪 琴菜	31
☆ 小学低学年の部	ゆずりあいのきもち	自由ヶ丘小学校	牧野 源生	31
☆ 小学高学年の部	思いやりの輪を広げよう	自由ヶ丘小学校	加藤 蒼士郎	31
☆ 中学生の部	優しい社会を	中央中学校	中島 叶恵	32
☆ 高校生の部	みんなの一步で	宗像高校	櫻井 心	32

銀賞

☆ 幼児の部	共に生きる	さくらんぼ保育園	山崎 蓮斗	32
☆ 幼児の部	かぞく	日の里東保育園	早川 大良	33
☆ 小学低学年の部	ながいきしてね	東郷小学校	三木 絢仁	33
☆ 小学低学年の部	さいきょうパワーのおじいちゃんおばあちゃん	玄海東小学校	下畑 冬海利	33
☆ 小学高学年の部	いろんな色とともに	東郷小学校	古賀 凜音	34
☆ 小学高学年の部	きずなのわ	日の里東小学校	堤 悠真	34
☆ 中学生の部	補助犬は人を救う	中央中学校	吉武 音色	34
☆ 中学生の部	思いやり 優しさを笑顔で	河東中学校	松木 亜湖	35

☆ 高校生の部	Live together	宗像高校	赤阪 美海	35
銅賞				
☆ 幼児の部	うんていでお友達に “お先にどうぞ”	野ばら保育園	亀井 小春	35
☆ 幼児の部	こだいのうみ	浄徳寺幼稚園	鹿江 琥太郎	36
☆ 幼児の部	「花の水やりをしたら、花も私もうれしかった」	野ばら第二保育園	富森 唯	36
☆ 幼児の部	たのしかったおもいで	浄徳寺幼稚園	秦 青葉	36
☆ 幼児の部	うさぎさんといっしょにおにわでみずやり	東郷信愛幼稚園	高田 京花	37
☆ 小学低学年の部	やさしく見まもる人たち	吉武小学校	豊田 茉央	37
☆ 小学低学年の部	やさしさは思いやり	自由ヶ丘小学校	渡邊 陽七乃	37
☆ 小学低学年の部	公園でみんなが楽しく	赤間西小学校	鬼塚 日葵	38
☆ 小学高学年の部	みんなが愛される社会へ	日の里東小学校	福山 愛未	38
☆ 小学高学年の部	やさしい女の子	玄海小学校	前間 柚李	38
☆ 小学高学年の部	いろんな思いやり	玄海東小学校	灘邊 ゆいか	39
☆ 中学生の部	思いやりと優しさでいっぱい	河東中学校	石田 優奈	39
☆ 中学生の部	世界中の愛、大きく育て	河東中学校	鈴木 友美子	39
☆ 中学生の部	思いやり	自由ヶ丘中学校	峯 楓佳	40
☆ 高校生の部	みんなが幸せな世界	宗像高校	福山 翠里	40

会長賞

障害者にできるひそかな手助け

東郷小学校 西村 咲那

私は、これまでに総合的な学習をして、障害者は障害がない人より日常生活は大変だけど普通の人となにも変わらない人だとこれまでの学習で学びました。その後、共に生きるを読んで、障害者は特別支援学校という学校に行くこともあることを知って、幼稚園のころ障害がある女の子がいたことを思い出しました。

これは、その女の子のお話です。私がまだ、幼稚園の頃に右足が不自由でいつも足をひきずって歩く女の子がいました。でも、私はまだ障害ということを知らなかったの、あの子は自分達とはちがうかわいそうな子、と思っていました。それに、みんなも、あの子と仲良くないって外では遊べないし楽しい

ことがない、と言っていたので仲良くなるうとは思いませんでした。

けれど、毎日一人でいるその子に気になって、「みんなと遊ばなくていいの。」と聞いてみました。すると、「みんな、私なんかと遊んでも楽しくないんだろうからしかたないよ。」と言って、自分からみんなの輪の中に入ろうとしないまま幼稚園を卒園してしまいました。

私は、この幼稚園の思い出をおもいだしたとき、もし今あの女の子に話しかけた日に戻れるなら「足に障害があって生活は大変かもしれないけど、こまった時に助けてくれる人はたくさんいてくれる。」と言いたいなと思います。

私は、総合的な学習を通して、世の中には色々な障害をもった人がいて、そういう人がいるということをやりたいくさんの人達に知ってもらうことも重要ということが分かったし、もしまた、あの女の子や障害がある人に出会う機会があった

ら、自分から手を差しのべられるようなそんな人になりたいと思います。また、そういう人がふえたら、障害者の人達も生きやすい、もっと優しい世界になってほしいなと思います。

金賞

おばあちゃんの笑顔を読んで

日の里東小学校 田中 紗佳

私は、ボランティア活動のことをよく知りませんでしたが、この話を読んで、私も似た体験をしていたため、この話を選びました。

この話は、ある日小学二年生のまゆみさんが、となりに住んでいるおばあさんのゴミ出しをしている姿を見かけたことから始まります。重そうにしていたため、手伝いたいと思ったまゆみさんが勇気を出して

声をかけたことで、おばあさんから感謝されます。それから小学校を卒業する前まで、かかさずお手伝いしていました。するとおばあさんから、これまでの感謝の気持ちと、ゴミ出しの日にまゆみさんに会えることが楽しみだったことを知らされました。ゴミ出しのお手伝いがきっかけで、人の役に立つことや人となることが喜びをまゆみさんは知ることができました。

この話を読んで心に残ったことは、おばあさんが助けを求めていたわけではなく、まゆみさんも感謝されたいと思っていたわけでもなく、まゆみさん自ら手伝いたいと思って行動したのがきっかけだったことです。

私にもこのような体験があります。放送委員の活動で、校門でのあいさつ運動をしていました。すると、自分が通っていた保育園の先生の子どもが登校してきました。一年生であるため気にかけてあいさつを

していました。ある日、保育園の先生が私に感謝していると母から聞きました。私がいさつをしていることで子どもが元気に学校へ行けるようになったとのことでした。知らないうちに人助けをしており、そのことがうれしかったことを覚えています。あいさつ一つで人の役に立つことができた良い体験でした。これからも人が助けを求めているなくても、困っている姿を見かけたら自ら行動したいです。そして人とのつながりを大切にしたいと思いました。

金賞

老いも若きも共に生きる

日の里西小学校 木下 翔

僕には、八十歳になる祖父母がいます。祖父は施設に入院中で小学生

の僕は面会することはできません。祖母は同じ町内に住んでいて、僕が学校に行ったか確かめてくれたり、家にお菓子を届けてくれたりします。だから、病気以外の高齢者は、どこも痛そうな部分はなく、元気というイメージをもっていました。

しかし、そのイメージは高齢者疑似体験をしたことで、大きく三つ変わりました。

一つ目は、足や手が重く感じたことです。少し歩いただけでも遠く感じたし、お金を払うために手をあげようとするだけでも難しかったです。

二つ目は、腰が痛く感じたことです。寝ている状態、起きている状態、どんな姿勢でも常に腰が痛いのです。特に、僕が杖を下に落としてしまい、それを拾う時には、とても大変でした。

三つ目は、目が見えにくく、耳が聞こえづらいことです。見える世界の全てが、黄色くぼやけた感じでし

た。自分の名前をいつものように同じスピードでバランスよく書けませんでした。話し声はただの雑音のように、ゆつくりと大きくしゃべってもらわないと、内容が理解できないほどでした。

これから、高齢者の方も過ごしやすい社会にするために、働きかけたことが三つあります。

一つ目は移動距離を短くすることです。駐車場、トイレなど、高齢者があまり動かずに用事を済ませられるようにしたいです。

二つ目は、途中で休める椅子や手すりを設置することです。設置が難しい場合は、僕と一緒に手を繋いで歩いたり、手すりの代わりに支えたりしたいと思います。

三つ目は、高齢者の近くで、大きな字で書かれた資料を見せながらゆつくり大きな声で話したいです。人はみんな年を取っていきます。今いる高齢者が暮らしやすい社会に変えていくことは将来の僕たち

が暮らしやすい社会を作っていくことにつながります。僕の祖母は元氣そうに見えるので、これらの三つを実行していくのは、少し恥ずかしいです。でも、勇気を出して行動に移し、祖母の笑顔をふやしていきたいと思います。

銀賞

「公民館のおじさんありがとう」を読んで

河東小学校 真木 つぐみ

私は、「公民館のおじさんありがとう」を読んで、町の安全とみんなの安全を見守ってくれている人は、町とみんなのことを大切にしているんじゃないかと思いました。なぜなら、みんながふだんやらないことをボランティアでしているから、町とみんなのことを大切にしている

と思ったのです。

私が小学生になったところ毎日おじさんが横断歩道に旗を持って「おはよう」、「行つてらっしゃい」と言ってくれていました。でも私は、一、二年生まであいさつを返すことができいていませんでした。でも三年生になってからは毎日あいさつを返すことができるようになりました。

一、二年生の時は、横断歩道に毎日立ってくれておじさんのことを何のために立っているんだろうと思っていました。でも三年生になって、横断歩道に立っているおじさんのことをみんなの安全と町の安全を見守ってくれていると分かりました。その時から私は自分からあいさつをするようになりました。私も人のために何かをしてみたいと思い、5年生の夏休みにボランティアに参加することにしました。地域に住むお年寄り等が集まるカフェのお手伝いをするボランティアです。実際にやってみてだれか困

っている人がいないか、声をかけることがむずかしくて人とコミュニケーションをとるのはとてもむずかしいと感じました。でもちよつとしたことでも喜んでくれているところを見ると私までうれしくなりました。

私の通学路の横断歩道に立ってくれているおじさんもこんな気持ちで立ってくれているのかなあと思いました。私は、横断歩道に立って町とみんなの安全を見守ってくれているおじさんのことに感謝の気持ちがより強くなりました。

銀賞

「ともに生きる」を読んで

赤間小学校 富森 晴海

ぼくは、「ともに生きる」という本を読んで、知らないところでぼくを

支えてくれている人がいるんだなと気付きました。

例えば、見守り隊の方は、毎朝安全に登校できるように雨の日も寒い日も通学路に立ってくれてい

ます。また、ぼくが楽しみにしている夏祭りも地いきの人たちが集まって考えてくれていることを知りました。ぼくがよく遊ぶ公園の草かりも地いきの人たちがしてくれていま

す。ぼくが、元気に登校したり遊んだりできるのは地いきの方たちのおかげです。ぼくも、だれかのためにできる事を何かしたいと思いま

した。障害については、初めて知ったことがたくさんありました。

車イスの人が使いやすいように、ボタンが低い位置にある機械や、ハートプラスマークやオストメイトマークなどは、見たことがあります。どんな人でも使いやすい

ように工夫されていてすごいと思います。

ぼくのおじいちゃんは、足が悪くゆつくりしか歩くことができません。車に乗るときはドアを開けたり、歩く時に手をつないであげたりしています。

障害については、周りの人が正しく理解することや相手を思いやる気持ちが大切だとわかりました。

点字ブロックのところに自転車を置いたりゴミを置いたままにしたりしないなど、ぼくにもできることが他にもたくさんあると思います。

障害がある、ないに関わらず、こまった人がいた時に自然に手伝える気持ちをもちことが大切です。

これからは、こまっている人がいたら自分から声をかけて多くの人を助けてあげたいです。

銀賞

障害のある人の社会生活

河東西小学校 木須 陽彩

私は、障害のある人の社会生活を
読んで、障がいがある、ないに関わ
らず、困った人がいた時にみんなが
自然に手伝える気持ちをもってほ
しいなと思いました。

義間さんは、手足に障害がある人
で、車いすで生活しています。今は
介助犬の訓練を受けて介助犬ユー
ザーになりました。介助犬は、落ち
たものを拾ってくれたり、物を持っ
てきてくれたり、生活の補助をして
くれます。義間さんが、車いすから
落ちてしまった時も、人を呼んでい
る間に、介助犬の、ロータスが隣に
いてくれるそうです。

私も、小さく生まれて足にハンデ
があります。車いすは使っています
が、介助犬はいません。でも学校で
困った時はクラスの友だちが、助け

てくれます。とても、嬉しいです。
だから私も人が困っていたら自分
が手伝えそうだったら助けるよう
に心がけています。でも、九州では
介助犬と一緒に電車やバス、タクシ
ーや旅客船にも乗れない所がまだ
多くあります。身体が不自由な人、
耳が聞こえない人、目が見えない人
が、介助犬と、一緒にくらしている
人がたくさんいます。なので、もつ
と人と介助犬が共生できる、社会に
なれば、身体が不自由な人たちも、
みんなと同じ生活が送れるんじゃない
のかなと、思いました。

義間さんは結婚もしています。結
婚式では指輪を、ロータスが運んで
きてくれたそうです。今は、子ども
も、1人いて、障害が、ある、ない
にも関わらず、家事をしたり保育園の
送迎もしているそうです。でも、で
きない事もあるので、家族や、ヘル
パー、ロータスに手伝ってもらって
いるそうです。

私はまだ子どもで、先生や親、友

だちに、手伝ってもらう事が多いで
す。私も大人になっていつてしょう
来結婚して子どもがいるかもしれ
ません。もしかすると私も、介助犬
と、くらしているかもしれませ
ん。社会が今よりもっとハンデがある
人にも生きやすくなっていけば、い
いなと思いました。

銅賞

迷わず手伝える人になりたい

吉武小学校 濱口 さや

わたしは、このお話を読んで、学
校で勉強したアイマスク体験のこ
とを思い出しました。アイマスクを
付けて歩いてみると、ふだん歩きな
れた学校のろう下や階段でも、歩け
る場所がこの先もあるのか分から
ないことが、とても怖いと感じたこ
とを覚えています。短い時間でも、
とても怖いと感じたのに、見えない

ことがずっと続くことは、とても不安だろうと思いました。

お話に出てくるかずおくんは、とても明るく、わんぱくで、野球やかけっこ、テレビも大好きで、まわりの人のちよつとした協力があれば、何でもできる男の子です。

総合の学習で出会ったおばあさんもかずおくんと同じように、「手伝ってもらえたら、何でもできる。」と話していました。アイマスク体験で、見えないことの怖さや不安さを感じていたので、かずおくんの姿や料理も自分で作ると話していたおばあさんの話は、すぐには納得ができませんでした。この話を、お母さんにすると、「でも、お父さんもそうじゃない。」という言葉が返ってきました。わたしのお父さんは、足が不自由なので、車いすを使って生活しています。不自由なこともありませんが、たくさん工夫と周りにいる人の少しの手伝いがあれば、何でもできます。自分で車に乗って好きな

場所にも行けるし、趣味のバスケットボールも楽しんでます。

目が不自由だったり、足が不自由だったりしても、不自由ではあるけど、不幸ではないと、お父さんやおばあさん、そしてかずおくんの姿から感じました。そして、みんなが幸せに暮らしていくためには、周りにいる人の少しずつの協力が必要です。わたしは迷わず手伝える人になりたいです。

銅賞

高齢者を支えるボランティアさん

河東西小学校 岡崎 結愛

わたしは、「高齢者を支える地域の取り組み」を読んで初めて知った事がたくさんありました。

この内容は、一人ぐらしの方やね

たきりの方の家を定期的に訪問して、元気でいるか確かめたり、なやみ事の相談に乗ってくれるボランティアさんの事が書かれています。その中でもわたしが初めて知ったことは、民生委員の人やシニアクラブの人、見守り協力員の人たちなどの色々な団体が見守り訪問活動をしていることや最近では、新聞配達員さんや宅配業者さん、ゆう便局の局員さんなども見守り活動をしていることです。

わたしのおじいちゃんも、大分県で一人暮らしをしています。おじいちゃんに住んでいる地域では、七十五才以上の一人ぐらしの方の家に、週に三回ヤクルト配達員さんが無料でヤクルトを持ってきてくれたり民生委員の人が月に一回訪問に来て色々なお話をしているそうです。また、近所の人たちもおたがい困っている事がないかや元気にしているかなど、声をかけあっているそうです。一年間の行事では、けい

老の日とお正月にお茶やひよこまんじゅうやおもちなどを民生委員の方が持ってきてくれるそうです。わたしも、おじいちゃんになかなか会うことが出来ないの、電話で話したり、ラインをしたり手紙を書いたりして、学校であったことや家での出来事をたくさんお話しています。今年のお盆も家族でおじいちゃんの家にとまりに行きます。久しぶりにおじいちゃんに会うので、たくさんお話をしたり一緒にごはんを作ったりしたいです。そして、これからも離れているけど、おじいちゃんとすごす時間を大切にしていきたいです。また、わたしが大人になったら、近所のおじいちゃんやおばあちゃんが困っていることがないかや元気にしているか声をかけてあげたいと思います。

銅賞

ずっとずっと、私のおじいちゃん

河東西小学校 橋本 隼斗

ぼくは、この本を読んで共感する所がとてたくさんありました。本の中でおじいちゃんが自分の子どもとまごの名前をまちがえるシーンがありました。ぼくの家にも88さいになるひいおばあちゃんがいいます。最近、名前をまちがえてよばれる事が多く、まちがっている事を伝えても、伝わらない事があります。他にも曜日が分からなくなつて、ゴミ出し日を何回も聞いてきます。そのたびに「またか・・・」「さっきも言ったのに・・・」といやな気持ちになる事があり、主人公の気持ちがよく分かりました。

しかし、ぼくはひいおばあちゃんが大好きです。時々、日にちとか、わすれてしまう事があるけど、ぼく

の好きなアイスやおかしを覚えてくれていて、買ってきてくれます。たまに、朝と夕方をまちがえる時もあるけど、学校の下校時間になると、必ず毎日外で帰りを待っていてくれる優しいひいおばあちゃんです。また、1人で散歩に出かける事があります。ぼくは、ちゃんと家に帰ってこれるか心配になる事があります。無事に帰って来るとホッします。

これからどんどん、年をとつて、色々な事をわすれてこまつてしまふ事がたくさんあると思います。そんな時は、やさしく一つ一つ教えてあげたいと思います。主人公のように、今まで以上に優しく、接したいと思いました。今まで優しくしてくれた分、これからは、ぼくが大きくなつてからも、長生きできるように助けていきたいと思いました。

そして、毎日笑顔ですごせるように、楽しい話をしたり、色々な場所につれて行ってあげたりしたいと

思いました。家族以外でも、同じような人がいたら、声をかけ、助けてあげたいです。ひいおばあちゃんに感謝しながら、日常生活をくらししていきたいです。

悪い事があっても良い事があっても、変わらないひいおばあちゃんです。

銅賞

ぼくのいとこ

河東小学校 栗田 健太朗

ぼくには、男の子のいとこがいます。名前はいし君。しょうがいをもっています。ボールを投げて遊ぶのが好きな元気な小学一年生です。歌うことも好きです。遊びに行くとよく歌ってくれます。でも、一人で歩くことが出来ません。道具を使えば、歩くことができます。道具にも

種類があります。PCWや車いすです。歩く練習をするために、家にトレッドミルというウォーキングマシンを買って、手すりにつかまってリハビリをしています。遊びに行った時に、ぼくもやってみました。ぼくにとっては、かんたんだったけど、たいし君は後ろにたおれないように、大人に支えられて両手はしっかりと手すりを持って歩いていました。毎日歩く練習をしているので、最高四分位一人で立つことが出来るようになりました。何も持たずに自分で十二歩進めるようになったみたいです。一人で立つことが出来ないと歩くことだけではなく立ってズボンをはくことも出来ません。たいし君は、かた手で机やソファなどをつかんで、もうかた方の手でズボンを上げたり下げたりします。たいし君のお母さんは、自立に向けてくん練をしていると言っていました。そして、「しょうがいは、目には見えないものもあるんだよ。」

と、教えてくれました。ぼくは、たいし君に「手を持つとか。」とか、「一緒に歩こうか。」とか言っていたみたいだけど、ふつうに遊んでいただけなので、おぼえていません。ただ困っているのかなと思った時には、助けています。「通勤中のできごと」を読んで、その人に合った手助けが出来ようになうになりたいと思いました。

「ともに生きる」の本の中に、「あなたも、私も、しょうがいのある人もみんな同じ『人』です。」と書いてありました。ぼくは、たいし君がしょうがいをもっているとは思っていません。ただ、生まれるのが早かっただけです。四百八十二グラム、二十七・五センチメートルで生まれてきたと、たいし君のお母さんが教えてくれました。

ぼくのいとこのたいし君は、一人では少し歩きにくいけれど、ぼくと同じ人間です。

優秀賞

「ともに生きる」を読んで

赤間小学校 永露 かのん

私は、お年よりは、毎日休みでいいなと思っていただけ、お年よりだって大変なことがあるのだなと思います。

その理由は、二つあります。

一つ目は、ようつうや病気など体のことです。私は、まだ子供なので、ようつうやろう眼のことは体験したことはないけれど、立ったり、新聞を見たりなどの一つ一つの小さなことでも、おとしよりには大変なのだと分かりました。病気のがんなどは、お年よりしかないわけではないけれど、体のおとろえでがんになったり、お酒で体に栄養がとどかずがんになったり、ということでも病気につながるから、未成年はお酒がきん止なだけ、安全だと思いました。このように、お年よりは、体

のおとろえで大変なのに、私の祖父は、今でも朝にほほ毎日、城山に登山しに行ってそれがふつうのことだと思っていたけど、「ともに生きる」を読んでから、すごいことをしているような気がしました。

二つ目の理由は、孫の見送りをするだけでいやがられるなどの精神的なことです。たいていのお年よりは孫と遊ぶことが、生きがいのようなことだけど、好かれたいのに孫におこられたり、よかれと思った行動がだめだったりということがあり、体だけでなく、本当は、気持ちもつらいのではないかと、思いました。

「ともに生きる」を読むことで、前はなかなか、お年よりの手伝いをするのができていなかったもので、これからはできるかぎり手伝い、お年よりの大変なことを少しでもへらせるように、がんばりたいです。

優秀賞

ケースバイケースとともに生きるために

赤間小学校 小宮 秀悟

「ともに生きる」を読んで、障がいがある方のことをあらためて考えることができました。

障がいには、見えづらさ、聞こえづらさ、歩きづらさの他に、知的、精神、発達障がいなどがあるそうです。障がい者の方と会ったらどうしたらいいか自分なりに考えてみました。

聞こえづらさを感じている人に会った時は紙を使ってコミュニケーションをとればいいと考えました。見えづらさを感じている人に会った時は、まず声をかけて何をしたらいいか、何をすれば助かるのか聞きたいと思います。言われたことを行う方がありがたいのではないかとぼくは思います。また、点字ブロ

ツクの上に自転車などの障がいがあったら、点字ブロックからよけていきたいと思います。障がいを持つ人も持たない人も同じ一人の人間です。「障害」は、ものであって人ではないと思います。みんながかい適にくらしていけるように、一人一人が相手のことを考え、「障害」をなくす行動をしていけばいいと思いました。

優秀賞

ともに生きる

赤間小学校 平川 紗羽

私は、ともに生きるを読んで心に残ったことが二つあります。

一つ目は、介助犬です。介助犬とは訓練をうけた障害のある人の生活をお手伝いしてくれる犬のことです。私が介助犬を利用している義

間祐子さんの話を見て私が介助犬で一番おどろいたことが落ちたものを拾ってくれたり物を持ってくれたりすることです。私は、義間さんの話を見て介助犬は障害者の生活をささえてあげるだけではなく心のささえにもなってくれるとてもじゆうようなそんざいだなと思いました。

二つ目は、障害者のためのマークです。

障害者のマークとは私たちのくらしのなかにある町の人たちも障害者にとってもべんりなものです。

私がマークを見ていろいろなマークがたくさんありました。

たとえば身体障害者標識という体に障害のある人が運転する車を示すマークだったりオストメイトマークという人工肛門や人工膀胱をつけた人が使いやすいトイレなどの設備があらわすマークなどほかにもたくさんあります。私はたくさんさんのマークを見てマークは障害

者の人たちが安心してしせつを利用したり周りの人にもりかいしてもらいいろいろな人が安心してせいかつできるようにするマークはすごいなと思いました。

私は、ともに生きるをよんでいろいろな人たちが工夫してこうれいしやや障害者の方や地いきの人たちに安心安全なくらしができるようにいろいろなしせつやのりものなどちいさなことで工夫しているいろいろな人がえがおになつていくんだろうなと深く考えさせられました。この本でしつたことをいろいろな人につたえたいととても思いました。

優秀賞

わたしたちにできること

赤間西小学校 堀 玲

わたしは、「おばあちゃんの笑顔」という物語を読んで、こまっている人を見かけたら、勇気がなくても、自分に自信をもって、すぐに、協力してあげようと思いました。自分たちの地域では、「ボランティア活動」という活動が行われています。ボランティア活動は、人だけじゃなく、地域のためにも、活動できます。「安全見守りボランティア」や、「学習支援ボランティア」、「地域清掃ボランティア」など、かんきょうや、子どもに関する活動がたくさんあります。また、「おばあちゃんの笑顔」の最後の場面では、「近くに住んでいても遠くに感じていたおばあちゃん」と心がつながった気がしました」という文章があります。この文章のように、こまっている人を助けると、

いろいろな人と交流でき、仲が深まるといい良さがあります。ボランティア活動も同じように、いろいろな良さが、たくさんあるのです。

みなさんも、こまっている人を見かけたら、勇気がなくても、「目の前にこまっている人がいる」という意志を強くもち、協力してみてはどうでしょうか。わたしも、勇気を出してがんばってみたいと思います。

優秀賞

ともに生きるを読んで

赤間西小学校 瓜生りの

わたしは最初高齢者のことを昔とはちがって目や耳が使いにくかったり、物忘れがひどいやすぐ怒るなどあまり良い印象を持っていませんでした。ですが、ともに生きるの第2章を読んで、年をとっていつ

も通っている道が分からなくなったり、人や物の名前をまちがえたりして昔とは変わってしまうけど心は変わっていないことが分かりました。

高齢者が安心して生活できるように見守り訪問活動や高齢者サロン、認知症徘徊ネットワークなどを取り組み、地域の一人一人が安全に楽しくくらす地域作りを目指しているそうです。高齢者は長く生きていくため、若い人たちよりもいろいろなことを経験しています。その知恵や技能を活かして伝統的工芸品を作ったり、伝統行事を継承したり、寺子屋を開いて小学生たちに勉強を教えたりしています。他にも地域の安全のために登下校を見守ってくださったり、町の歴史を伝えたりなど、地域の伝統や歴史、安全を守ってくれています。

ともに生きるを読んで、高齢者や高齢者を支えている人たちの願いや苦労、喜びなどを勉強して、自分

たちにできることを考えてみようと思います。

優秀賞

「通勤中のできごと」を読んで

河東小学校 後藤 和子

私は、このお話を読んで、親切だと思つてやったことが、逆に相手を悲しませたりしてしまうこともあると分かりました。

これまで私は、視覚障がい者の方たちは、点字ブロックを使わないと歩くのがむずかしいと思つていました。けれど、「通勤中のできごと」を読んでみると、視覚障がい者の方たちは練習をして、点字ブロックを使わずに歩くことができる人もあると分かりました。そのとき、ふと思ひ出したことがあります。私は以前、白杖を持つているけれど、点字ブロックをあまり使わずに歩いて

いる人を見かけました。今思えば、永吉さんと同じように練習をしたリ、なれているのかも思いました。

私は、「点字ブロックを使わない方が近道だったり、同じ方向に歩く人の流れに乗った方がスムーズに歩くことができる」ときもある。「点字ブロックの上に自転車など置いてあり、かえつて歩きづらいこともある。」と知り、点字ブロックにはメリットもデメリットもあるんだなと思ひました。しかし、「自転車などが置いてある」は解決できるんじゃないかと考えました。他の人たちが点字ブロックに自転車などを置かなければ、困る人は少なくなるはず

です。私はこれまで、点字ブロックのメリットばかり考えていました。また、視覚障がい者の方たちは点字ブロックを使わないと歩くのがむずかしいと思つていました。

けれど、今回このお話を読んで、色々なことを考えたり、今まで、思

いちがいをしていたこともあると分かりました。これからも点字ブロックに自転車などを置いたりせず、もしも町で視覚障がい者の方を見かけたら、「何かお手伝いできることはありますか？」と声をかけたいです。

優秀賞

「通勤中のできごと」を読んで

河東小学校 日高 悠乃輔

ぼくは、「通勤中のできごと」を読んで、障害のある方の考え方をちゃんと知っておくことが大事だなと思ひました。

四年生の時に、福祉学習で視覚障害のある方の気持ちを知るために、アイマスク体験がありました。アイマスクをつけて校舎を歩くと、いつもならすぐに上れる階段も、手すり

を持つてもこわくて、「あと一段だよ」などと言ってくれるペアの人がすごくありがたかったです。その体験でぼくは、視覚障害のある方は手助けしてくれる人がいたり、点字ブロックやユニバーサルデザインがあつたりしないと歩くことがむずかしいんだなという先入観を持ちました。けれど、このお話の永吉和之さんの「視覚に障害があるということでは同じでも、見え方・考え方・得意なこと・不得意なことなど、いろいろな人がいることを知ってほしいと思います。」というメッセージを見て、先入観を持つのはあまり良くないと思いました。しかも、永吉さんは点字ブロックなしで、しかも一人で歩けるということを知って、そんな方がいるんだと思い、自分が思った先入観は少し違っていたことも分かりました。これからぼくは、障害のある方の考え方をボランティア活動や障害のある方との交流を通してできるだけ知りたい

です。そして、障害のある方への先入観を無くして自分の行動を決めていこうと思います。

優秀賞

おじいちゃん認知症

河東西小学校 安西 実久

認知症になったらどうなってしまうのだろう？と思ったのが、私が「ずっとずっと、わたしのおじいちゃん」を読んだきっかけです。

印象に残った場面は、ともこが泣いている時にお母さんがおじいちゃんの話をした所です。なぜなら、「おかあさんが小さいとき、おじいちゃんはお父さんがお母さんを守らなかつたりすると、それはそれは大きな声でかみなりを落とされたのよ。でもお母さんがふとんの中で泣いてい

ると、背中をトントンしながら『さちこ、もうなきやまんね。』って言うてくれたものよ。きびしいけど、世界一やさしいお父さんだった。」と言ったので、ともこは、なんだかふしぎな気持ちになった。おじいちゃんはお母さんのお父さんで、昔からおじいちゃんじゃなかったんだな。と書いていたので、ともこは今のおじいちゃんと、昔のおじいちゃん、とどんどん変わっていくのがとても悲しいんだと思いました。

もし、私のおじいちゃんが認知症だったらともこと同じように、とても悲しくてとてもモヤモヤすると思います。

この話を読んで新しく知ったことは、認知症では、家族のことをわすれちゃったり、家や道が分からなくなってしまうことです。家族をわすれてしまうと、イライラ、モヤモヤして、昔と今で変わってしまったりするそうです。

でも私は、疑問に思ったことがあ

ります。それは、どうして認知症になつてしまうのか？認知症にならないためには、どうすればいいのだろうか？まだまだ知らないことは、たくさんあります。

これからは、認知症についてもっと知り、もし家族が認知症になつても、やさしくサポートしたいです。

優秀賞

「親切のつもりでも」を読んで

南郷小学校 古田 愛美

五年生になつて左目が悪いことに気づいたゆかりちゃんは、治りようと訓練をしながら、クラスのミニ・バスケットボールの練習をがんばっていました。

わたしは、「親切のつもりでも」を読んで心に残った場面は、クラスのみんなでミニ・バスケットボールの「三角パス」の練習をしている場面

です。

その場面で特に心に残った行動や言葉は、ゆかりちゃんがボールを落としてしまったことに、ゆかりちゃんの友達の人、とし子さんが、「ゆかりちゃんだけはいいいよ。目が悪いからボールを落としても許してあげる。」と言った言葉です。「うん。」と返事をしたゆかりちゃんは、家に帰って泣いてしまいました。心に残った理由は、とし子さんは、ほかの人がボールを落とすと、ガミガミ、ガミガミ言うのに、ゆかりちゃんだけやさしくしてくれます。でも、そのあとゆかりちゃんが家に帰って泣いてしまったのは、自分だけ仲間はずれ、一人ぼっち、不公平だと思つたからなのでは、と思つたからです。

ゆかりちゃんのように、目が見えなかったり、どこかが不自由だったりする人を見たことがあります。そんな人たちが幸せにくらせるために、なんでも助けてあげたい、やさ

しく親切にしてあげたいと思つていました。でも、それがゆかりちゃんのように、親切にできていないときがあるのだなと思いました。

この物語を読んで、作者が言いたかったとても大切なことは、ふだんしている「親切」は、親切にしている人に、本当に親切になつていてか考えてほしい、だと思ひます。なぜなら、ゆかりさんのように、親切がめいわくになつてしまうことがあります。その親切なめいわくは、相手を悲しませてしまうから、何が「親切」で何が「めいわく」なのかを伝えたいんだと思つたからです。

わたしのいつもしている「親切」は、もしかしたら「めいわく」かもしれないと思ひました。なので、親切にする時は、相手をききつけないように気をつけてすることが大切だな、と思ひました。

このことから、今までの自分はどうだったか見直すきっかけになりました。これからは、相手が喜ぶ親

切をしていきたいな、と思っていきます。

優秀賞

いろいろな種類の障害

東郷小学校 奥 大志

ぼくは総合的な学習の時間で「いろいろな種類の障害」について学びました。ちなみに障害にはさまざまな特徴があり、誰にでも少しは当てはまるような個性のようなものがあり、その色が濃いか薄いかのようなものとは僕は考えます。この勉強では人権の大切さや、「障害があっても大丈夫だよ」ということを教えてもらいました。こういったことを知れたのはとてもいいことだと思います。

障害には7個ほど種類があります。その中の一つである知的障害を抱える人は、言葉の意味やルールを理解するのが遅れたり、身の回りの

ことを身につけたりするのに時間がかかったり戸惑ったりします。しかし、しっかりと日常を送り、くり返しくり返し練習に取り組むことで少しずつできるようになるそうので、できるようになるという希望があります。僕もできるようになるまでに、時間がかかることがあるように人にはそれぞれ自分のペースというものがあるのです。

障害について僕は決して不自由なことではなく、希望を持ち、少しずつ工夫を重ね、生活をしていけば最終的にはその努力が報われるのではないかと信じています。つまり、障害があろうがなかろうが希望を捨てずにまっすぐ努力し続けることが、みんな同じように大切であるということだと思います。このような考えの障害のある人やない人が増えてほしいと僕は願っています。

ぼくにできることは障害のある人のことをあまり知らないのに軽はずみに発言するのを極力やめて、

傷つかないように発言することで。また、しっかりとやさしいサポートをしてあげたいです。そして、
・「障害があるからといって差別しない。」
・「あたたくく見守る。」

といったことをみんなだれもが知ることが大切なことで、誰にでもできることです。これらのことをできるだけ多くの人が尽くして、世界中が差別や偏見のない世の中になったらいいと思います。

優秀賞

障がい差別のない世界へ

東郷小学校 宮内 結愛

私は、3年生のときに、視覚障がい者などの人達に会い、どんな生活をしているのか、教えてもらいました。3年生で、少しシユワツチさんとの交流で勉強をしたとき、障がい

というのは、すごく大変な病気なんだな、と思いました。目が見えないと、見たいものを見ることができないし、耳が聞こえないと、シーンとした暗闇に閉じ込められているような気もするので、怖いと思います。町中でもよく、白杖を持って、歩いている人を見かけるけど、何事もなく歩いていくのですごくいいなと思いました。

「ともにいきる」という、教科書を読んだときも、知的障がい者の方も懸命に働いているので、頑張っていることが伝わってきました。障害があっても、私たちにはない才能を持っている人もいるから、その分頑張れるんじゃないかと思います。障害がいのある人の生活は難しいと思いますけど、ちゃんと、私たちと同じように生活できている人もいるから、苦しい人ばかりじゃないんだな、と思えました。

大分に旅行に行ったとき、パン屋があったので、行ってみたら、障が

いのある人が働いていました。パンとお金を出したら、一生懸命に計算していました。ちよつと時間がかかったけれど、一生懸命さが伝わってきて、すごいなと思いました。機械のレジがなかったので、自分たちで暗算して計算するんだ、と思うとすごいと思えます。そのように、障がいの人も、私のお母さんやお父さんと同じように働いているんだから、バカにしたりしては駄目だ、と思いました。障がいの人が作ったパンはとても美味しく感じられました。

このような経験をもとに、障がいのある人がいても、いなくても環境は変わらないし、同じ生きている人間だから、バカにしてはいけないと思います。私はこれから、障がい差別がないような環境になったら良いなと思います。そして、障がいの人も関わりが増えて、病気がある人もない人も、仲良く出来たら良いなと思います。

優秀賞

私に出来ること

日の里東小学校 山田 大翔

私は、総合の授業で目が見えない人の学習をしました。学校に、目が見えにくい方が来てくれて、私たちの色々な質問に答えてくれました。友達が、「趣味は何ですか。」と、たずねると「卓球かあみ物をするクラブに行くことです。」と、教えてくれました。クラブでは、お茶を入れるときもこぼさないような道具があるそうです。目が見えにくくても、音で楽しんだり出来る事がすごいなと思いました。

「ともに生きる」を読んでいて、第三章の「障害があるってどういうこと」が気になりました。障害には、色々な種類がある事を知りました。「精神障害」という障害は初めて聞きました。そんな障害もあるのだなと思いました。また、福岡県の人口

の約6%が障害を持った人だと知って、意外と少ないと思いました。病気になる人はたくさんいるから、障害を持つ人ももっと多いと思いました。

前に、電車に乗った時、大きな犬を連れてサングラスの人がいました。犬は、その人の足元にしがみつくようにしていました。その人は、一回もまばたきをせずすわっていたので、「すごい人が乗ってきたな」と思いました。その時はわからなかったけど、「ともに生きる」を読んで、視覚障害者だったと気が付きました。一緒にいた犬は、介助犬か、盲導犬だったと知りました。

もし私の目が見えなかったらどんな感じになるのか、家でやってみました。いつもやっているトースターでパンを焼くという行動です。目をつぶりやってみたらむずかしくてパンが焼けませんでした。練習すれば出来るかもしれないけど、大変だなと思いました。電車に乗ってき

たその人と犬はいっぱい練習したのだろうなと思いました。目がみえない人でも色々な練習をすることで何でも出来るようになる。それは私も同じで、出来ないことは練習して出来るようになります。障害があってもなくてもみんな練習をすることは同じですが、障害を持っている人は上手くないこともあると思うので、困っている人がいたら声をかけようと思います。

私のいとこに身体障害を持つ人がいます。一緒に食事をするときが多いのですが、おはしが上手く使えないので、机の上に置いてあるおすしやお皿などを取ったりするときには困ります。そんなときに「取ってほしいものがある？」などの声をかければいよこの助けになると思います。障害がある人に声をかけるといふ事とは大事なことでたと知りませんでした。困っていそうな人を見かけたら、様子を見て声をかけることから始めたいと思います。

優秀賞

今の私にできること

日の里西小学校 坂田 陽夏子

私は、総合の学習で高齢者のインタビューをしました。これまで「高齢者」と聞くと耳がわるかったり急に話しかけてきたりするので少し苦手でした。なので私は、最初うまく会話ができたのか不安でした。でも、来てくださった高齢者の方々はとても元気で私の思っていた高齢者とは大きくちがっていました。

まず、高齢者の方は町のために様々な取り組みをしてくださっていることです。たとえば花をうえて町をよりゆたかにしたり通学路を見守ったりしてくれています。次におどろいたことは、認知症の人は自分の症状をわざと知っているわけではないということです。認知症の人は相手のいやなことをわざとしてしまう症状の人と思っていました。

しかしわざとではなくつい相手をうたがったりイライラしてしまうそうです。そのことを知って私は今まで道ですれちがった時にイライラしながら電話をしていた人ももしかしたら認知症だったのかなと思いました。そして、もし知り合いや友達に認知症の方だけではなくイライラしている人がいたらやさしく話を聞いてあげたいなと思いました。また、高齢者のイメージの一つにただ家の中で静かにくらししているというのがありました。けれど私たちがインタビュする相手はこしや足も弱いといっていたのに歩くのが私たちと同じくらいのスピードでとてもいきいきしていました。さらに友達とご飯を食べにいたり旅行にいたりしているそうです。しかし、私たちと同じくらい元気や体力があっても大きな荷物や重い荷物を一人で持つのはつかれるしきついと話をしていました。私はこのことを聞き近所の

おばあさんが一人でごみの入ったふくろを持っていたことを思い出しました。高齢者の方々は町をより明るくするために自分にできることを考え取り組んでくれています。これからは私ができるみんなのためにできる事をしてあげたいと思います。

優秀賞

「野球大会」を読んで

自由ヶ丘小学校 本田 海

ぼくは、「野球大会」を読んで、自分の好きな事がとつぜんうばわれるつらさや、こしから下が動かなくなる事がこんなに大変な事なんだなど、初めて知りました。ぼくは今年の夏から野球を始めました。練習の時は、アップで走ったり、キャッチボールをしたり、バッティ

ングをしたりします。外でする練習や試合はとても暑いし、きついし、やめたいと思う時もあります。でも、事故や病気でやりたい事もできない子がいるんだと知りました。ひろし君が、事故の後、家や学校から遠くはなれたし設で、どんな気持ちで機能回復訓練をしたんだろうと思うと、とてもつらい気持ちになりました。でも、し設で同じように、訓練している子と出会い、きつとつらくて大変なのは、自分だけではないとひろし君は思ったと思います。ぼくは、ひろし君の人にめいわくをかけるのではという、小さな心配のつみかさねで、車いすの人や体が不自由な人が、楽しく明るく過ごせないのはとてもおかしいと思いました。ぼくは、体が不自由なわけでもないし、車いすにのったこともないけど、ぼくたちがあたりまえにしていることがだれにとつてもあたりまえにできる世界になつてほしいです。すべての人たちが幸せに生きれ

る世界になってほしいです。

優秀賞

まさるちゃんの生命力

自由ヶ丘小学校 小野 詩文

ぼくは、夏休みの宿題で、福祉教育読本の「ともに生きる」を読んだ。その中で、「まさるちゃんのいのち」という題材を選んだ。

なぜなら、まさるちゃんの生命力の力強さにおどろかされたからである。まさるちゃんは、水頭しょうという病気で半数は一年半未満で死亡すると言われている。まさるちゃんも、大病院で手術を数回行い、その度に、まさるちゃんの生命力はこの困なんにたえていた。食事があんまり食べられなかったけれど、三か月後には、果汁、野菜スープ、重湯、みそ汁を少しずつ口で食べられ

るようになり、半年後には、プリンやおかゆも食べられるようになった。体も少しずつ動かせるようになった。まさるちゃんの病気は一年半未満で死亡すると言われていたけれど、どうして食事もとれて、体も動かせるまでに、回復できたのか、なぜだろうと思った。ぼくは、サッカーの試合で、あきらめそうになった時に、家族やチームの応援で、最後まであきらめずにボールを追いかけることができたことがあった。もしかしたら、まさるちゃんも、生命力の強さだけじゃなくて、園の医師、かんご師、児童指導員、家族の応援が、まさるちゃんの生きる力になったのではないかと思う。

ぼくが、家族やチームに助けられたように、これからは、ぼくも周りの人の力になれるような人になりたい。

優秀賞

かずお君の本、きれいやねを読
んで

自由ヶ丘小学校 山田 結菜

「ともに生きる」の中から私がこの話を選んだのは、点字にきょう味があつたからです。以前、点字について、学校で習いました。

紙にたくさんさんの点字がならんでいて、触るとざらざらします。目が見えなくて文字を読めない人はこのざらざらを指でなぞって読んでいくと聞いてとてもおどろきました。

そして、町の中でも色々な所にこのざらざらの点字があることに気付きました。それは、手すりや案内板、エレベーターのボタンなど、行き先を示すもの、家の中では、ビールの缶にもありました。目が見えない人にとって、この点字がなければ、だれか見える人に教えてもらうな

ど、一人では困ってしまうことが多い
なるだろうなと思いました。

この物語の主人公、かずお君も目
の见えない子供でした。かずお君は、
ボランティアのお兄ちゃんやお姉
ちゃんの作った点字の教科書で勉
強をしています。

目が見えなくてもみんなと一緒に
勉強したり遊んだりしているか
ずお君もすごいと思いました。私
は、この教科書をボランティアで作
っているお姉さん達に感動しまし
た。

かずお君がクラスのみんなと一
緒に勉強できるように、かずお君や
先生やお母さんと相談しながら教
科書を作っていくことは、本当に大
変なことだと思います。

でも、そのおかげでかずお君は、
学校で勉強ができます。それは、か
ずお君にとってもまわりのみんな
にとってもすてきなことだと思い
ました。

ボランティアのお姉さんたちの

ように、生活に困なんを感じている
人たちを理解し協力できる心を私
も持ちたいと思います。

そして、今、支援級で勉強してい
る私のお兄ちゃんのこととも理解し
て、一緒に仲良く生きていきたいと
思います。

優秀賞

『命を支える』

自由ヶ丘南小学校 峯 桜輔

ぼくが、「ともに生きる」を読んで
一番印象に残った話は、「まさるち
やんの命」です。なぜならたくさん
の人がその命に関わって少しずつ
出来ることが増えていったことに
感動したからです。

ぼくは水頭症という病気を知り
ませんでした。その病気を知ってこ
わい病気だなと思いました。お母さ

んも最初は、こわかっただろうし、
悲しかったと思います。でも、医師
や看護師や児童指導員の人々の支
えによって一人じゃないと安心し
たと思います。印象に残ったのがミ
ルクを三時間おきに一日八回、細い
管を使って鼻の穴から食道に流し
こむ状態が三年間も続いたという
ことです。すごく大変だなと思いま
した。でも看護師さんが「一日でも
二日でもより人間らしい生活をさ
せてあげたい。」と思ってだんだん
と食べれる物が増えていったそう
です。

この、「より人間らしい生活」とは
何か考えました。ぼくは、障害を持
った人でも障害がない人とできる
だけ同じように生活することだと
思いました。今、ぼくの身近に障害
のある人はいません。でももしこれ
から障害のある人と接する機会が
あったら、障害があるからといって
できることを決めつけずに、少しで
もできることが増えるような支え

をしたいと思います。

障害のある人を支えるということとは、その命を支えるということであり、その家族を支えることでもあるとぼくは思いました。水頭症のようなこわい病気でもたくさんの方が支えることで、家族だけが大変な思いをすることがなくみんなで頑張る力がわいてくるのだと思います。

優秀賞

みんなが住みよいまち

玄海小学校 吉野 晴太

ぼくは、国語の時間に、ユニバーサルデザインについて調べました。信号機の音は、ピヨピヨ、カッコーの二種類があり、信号が青になると同時に音が鳴る仕組みです。この音になる信号機、音響信号機は、目の不自由な方のために、駅や市役所な

どの公共施設の近くに設置されています。

ぼくが住んでいる市には、ユニバーサルデザインがどれほどあるのかと、ふと思いつくと、学校に設置されているスロープや、建物に誘導するための点字ブロック、駅に設置してあるエレベーターなどがありました。

このように、いろいろなユニバーサルデザインがあるので、みんなが住みやすいのだと思います。

ユニバーサルデザインは、みんなが使いやすいように工夫されていて、公共施設や自分の家など、とても身近にあるものだと思います。ユニバーサルデザインは障がいを持った方々だけでなく、高齢の方々や、小さな子どもまで、だれでも使えるように作られたものです。今は、障害を持った方でも遊べる玩具や、文房具、教科書など様々なユニバーサルデザインが進化しています。また、ぼくたちが、そのようなユニバ

ーサルデザインを知ること、障がいへの理解が深まり、町全体が優しくなるのではないかと思います。

これからは、ユニバーサルデザインはもちろん、障害を知って、理解を深めることを大切にしていきたいです。

優秀賞

ともに生きていく、共生社会

玄海東小学校 松本 凜

私は、「ずっとずっと、わたしのおじいちゃん」というお話を読んで、年をとると、楽しいことだけでなく、つらいこともあるんだと思いました。その「つらいこと」というのは、目が見えづらくなったり、耳がきこえにくくなったりすることです。私は、このお話に登場するおじいちゃんをつらさが、よく分かります。な

ぜなら、私も同じような経験をしたことがあるからです。

それは、私のおじいちゃんの出來事です。ある日、おじいちゃんが私に急に抱きついてきました。私はびつくりして、「急にだきつかないでよ」と冷たく言ってしまったことがあります。その時のおじいちゃんの顔はまるで、今にも泣き出して、怒りそうな顔でした。その表情を見た私は小さな声で、「ごめんなさい。」と謝りました。すると、おじいちゃんは、温かい手で私の頭をなでてくれました。今回、この出来事を思い出しました。

インターネットで調べてみると、高齢者が毎日の生活で一番不安に思っていることは、健康や病気のことでだそうです。それは難しいかもしれないけれど、私にできることがあったらしていきたいと思いました。今から、たくさんの人達に出会い、たくさんさんの経験をしていきます。その時に、自分のことだけではなく、

家庭や友達のことでも大切にしていきたいと思います。今回感じたことを、忘れずに心に残しておきたいと思います。

優秀賞

みんなのためのユニバーサルデザイン

大島学園 古賀 妃奈

初めにみなさんは、「ユニバーサルデザイン」とはなにか知っていますか。

ユニバーサルデザインとは、体の不自由な人もそうでない人も、外国の人も子どもも、すべての人が利用しやすいように考えてデザインすることです。学校には、絵を使った案内表示があります。これなら、子どもや外国の人にもわかります。他にも調べてみると、スーパーには、点字ブロック、非常トイレには、

手すりが多くついていました。私はそれを見て色々な人が使いやすくて便利だと思いました。

私が実際見た場所は、福津のイオンやコスモスなどで見たことがあります。色々なところにあることを知らなかったけど、この勉強を通して知ることができました。

建物や乗り物、道路などをだれもが使いやすいように、することももちろん大切です。しかし、それよりも思いやりの心が大切だということも分かりました。

私はこれからもし、スーパーなどで困っている人がいたら声をかけたり、案内をしてあげることができるとなりたいです。

大島には観光客や外国の人たちが多く来ます。なので、もっとユニバーサルデザインを増やしたら、外国の人にも分かりやすいと思います。また、色々なところにユニバーサルデザインがあつたら観光客が増えるとも思いました。

私は、なにも不自由なく生きられているからあまり意識していなかったけど、ユニバーサルデザインを知ったから家族や身の回りの人に教えてあげたいです。

優秀賞

ともに生きるを読んで

地島小学校 隈元 琴音

わたしはともに生きるを読んで気になったことは二つあります。

一つ目は白杖頭上五十センチメートルシグナルです。このシグナルは、視覚障害を持った人が道で迷ったり、不安になったり危険を感じたりした時に周りの人たちに助けを求めるためのシグナルです。白杖を約五十センチメートル頭の上にあげます。だけど、視覚障害の人みんなが白杖を持っているわけではな

いと知りました。他にも世界で共通するシンボルマークもありました。わたしも見たことはあったけど、世界で共通するシンボルマークとは知らなかったのでびっくりしました。

二つ目は、補助犬マークです。盲導犬・聴導犬・介助犬など、目、耳手足に障害のある人の体の一部となつてはたらく補助犬の受け入れを示すマークだそうです。補助犬を見たことはないけれど、障害がある人にとって大切なそんざいだと思いました。

次にわたしは自分が住んでいる町にも、みんなにとってやさしい町づくりの工夫を探しました。わたしには妹がいてベビーカーで階段がのぼれませんでした。なので、ベビーカーをお母さんと持つてあがっていました。でもスロープのおかげでのぼったりおりたりするのが楽になりました。他にも点字ブロックというものがありました。これは目

の不自由な人をゆう導するためにあるそうです。わたしが特に気になったものが、ノンステップバスです。ノンステップバスはみんなが乗りおりしやすいように段差をなくしたバスです。段差のあるバスだと、お母さんがベビーカーをたたまなといけなくて、次の人が待つていることがよくありました。でもノンステップバスだと、それをしなくていいので、赤ちゃんがいる人にとつても利用しやすくなっていることが分かりました。

わたしは、世界で共通するマークや体のどこかに障害のあるひとが使う補助犬マークがあることは知らなかったし、みんなにとっての町づくりの工夫は、スロープや点字やノンステップバスもあることは知らなかったけど障害がある人にとつて便利なことだと思いました。

令和 6 年度

福祉絵画コンクール 受賞作品集

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

金賞



幼児の部
「ちきゅうのみんながにこにこ
げんきにくらせますように」
日の里幼稚園
三輪 琴菜

金賞



小学低学年の部
「ゆずりあいのきもち」
自由ヶ丘小学校
牧野 源生

金賞



小学高学年の部
「思いやりの輪を広げよう」
自由ヶ丘小学校
加藤 蒼士郎

金賞



中学生の部
「優しい社会を」
中央中学校
中島 叶恵

金賞



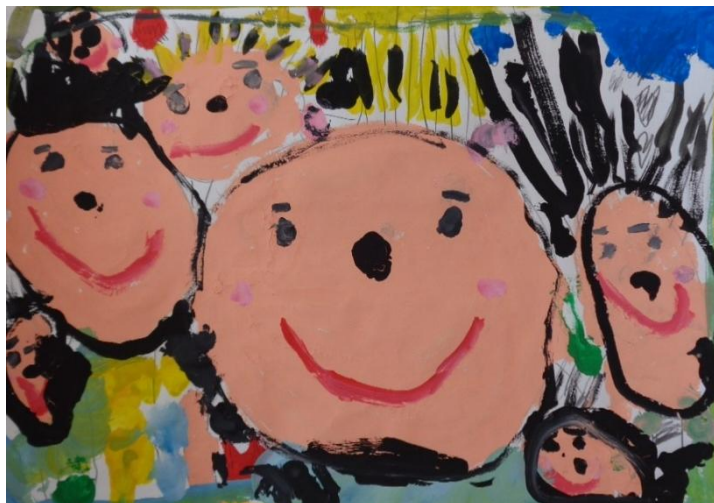
高校生の部
「みんなの一歩で」
宗像高校
櫻井 心

銀賞



幼児の部
「共に生きる」
さくらんぼ保育園
山崎 蓮斗

銀賞



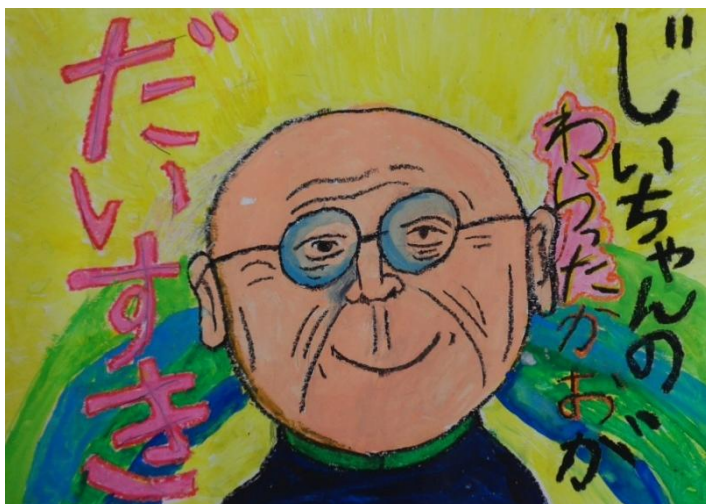
幼児の部

「かぞく」

日の里東保育園

早川 大良

銀賞



小学低学年の部

「ながいきしてね」

東郷小学校

三木 絢仁

銀賞



小学低学年の部

「さいきょうパワーの

おじいちゃんおばあちゃん」

玄海東小学校

下畑 冬海利

銀賞



小学高学年の部
「いろいろな色とともに」
東郷小学校
古賀 凜音

銀賞



小学高学年の部
「きずなのわ」
日の里東小学校
堤 悠真

銀賞



中学生の部
「補助犬は人を救う」
中央中学校
吉武 音色

銀賞



中学生の部
「思いやり 優しさを笑顔で」
河東中学校
松木 亜湖

銀賞



高校生の部
「Live together」
宗像高校
赤阪 美海

銅賞



幼児の部
「うんていでお友達に
“お先にどうぞ”」
野ばら保育園
亀井 小春

銅賞



幼児の部
「こだいのうみ」
浄徳寺幼稚園
鹿江 琥太郎

銅賞



幼児の部
「花の水やりをしたら、
花も私もうれしかった」
野ばら第二保育園
富森 唯

銅賞



幼児の部
「たのしかったおもいで」
浄徳寺幼稚園
秦 青葉

銅賞



幼児の部
「うさぎさんと一緒に
おにわでみずやり」
東郷信愛幼稚園
高田 京花

銅賞



小学低学年の部
「やさしく見まもる人たち」
吉武小学校
豊田 茉央

銅賞



小学低学年の部
「やさしさは思いやり」
自由ヶ丘小学校
渡邊 陽七乃

銅賞



小学低学年の部
「公園でみんなが楽しく」
赤間西小学校
鬼塚 日葵

銅賞



小学高学年の部
「みんなが愛される社会へ」
日の里東小学校
福山 愛未

銅賞



小学高学年の部
「やさしい女の子」
玄海小学校
前間 柚李

銅賞



小学高学年の部
「いろんな思いやり」
玄海東小学校
灘邊 ゆいか

銅賞



中学生の部
「思いやりと優しさでいっぱい」
河東中学校
石田 優奈

銅賞



中学生の部
「世界中の愛、大きく育て」
河東中学校
鈴木 友美子

銅賞



中学生の部
「思いやり」
自由ヶ丘中学校
峯 楓佳

銅賞



高校生の部
「みんなが幸せな世界」
宗像高校
福山 翠里

**令和6年度
福祉教育読本「ともに生きる」感想文集
福祉絵画コンクール受賞作品集**

発行年月 / 令和7年2月

作成・発行者 / 社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

福岡県宗像市久原 180 番地 メイトム宗像内

Tel : 0940-37-1300 Fax : 0940-37-1393

E-mail : info@syakyo.munakata.com

U R L : <http://syakyo.munakata.com>